

②「データで読み解く社会の動き」

両日ともに午前中は保健学部のデータサイエンスを専門とする先生方より PC 室での演習を通じてデータの扱い方を中心に解説をいただきました。

まず初日の前半では、橋本晃生先生から「データの正しい読み方・作り方」をデータの歴史や、基本的な性質を説明いただき、受講者はデータの作り方やまとめ方を実践的に学びました。さらに吉田清隆先生から「データ分析の基礎」について、実際に表計算ソフトを用いて、データの集計やグラフ作成などの説明をいただき、データの扱い方やデータの説明方法、そしてデータの視覚化の方法などについても学びました。

2日目の前半では、大森拓哉先生から現代の社会において当然のように用いられるようになってきた人工知能技術を、初歩の原理から具体的な演習を通して学びました。さらに坪下幸寛先生からは、深層学習の技術的背景と最新動向として近年の AI ブームの火付け役となった深層学習の技術的背景と最新動向や、様々な業種における AI・深層学習の利活用の状況を具体的な事例を用いて説明をいただきました。

また、両日ともに午後の部では、総合政策学部の先生方からデータサイエンスをどのように社会科学の分野で活用することができるのかについて、それぞれの専門分野から解説をいただきました。

まず初日は、マーケティングの専門家である加藤拓先生から、PC 室での演習を通じて、マーケティング・リサーチで用いるアンケート調査データの集計・分析方法と、統計がどう使われるかを学びました。さらに、実際にエクセルでデータを入力しながら、入力したデータを集計・分析する手順を学び、その結果の読み方まで解説いただきました。

2日目の午後は、情報法の専門家である尾崎愛実先生から新たな情報技術やイノベーション、それらに関わる様々な企業の動向を探ることにより、高度情報化社会にどのように参画していくべきか、また高度情報化社会における法的・社会的問題の理解のあり方、それらの問題を解決するためにどのような法的知識が要求されるかを学びました。

受講者からは、PC 上でのシミュレーションを通じて、「回帰分析の方法」、「マーケティング」、「人工知能やインターネットサービス」などについて詳しく知ることができよかったとの意見が多く聞かれました。内容については、専門的で難しいところがあったとしながらも、先生方の熱心な解説のおかげで理解しやすかったとの意見や、実用的で知らなかった知識やテクニックが得られたなどの感想もあり、楽しく満足できる講座であったとの評価をいただきました。コロナ禍ということで心配なところもありましたが、無事に夏期講座を終えることができました。

